

カセサート大学訪問記

2015年1月22日から25日の日程で、吉村幸則教授、前田照夫教授、小櫃剛人准教授および河上の4名がタイ王国のカセサート大学を訪問しました。今回の訪問は「日本型（発）畜産・酪農技術開発センター（RCAS）」の業務の一環としてRCASとカセサート大学における国際共同研究の可能性を探ることが目的です。カセサート大学は1943年にタイ国農務省管轄の農科大学として設立され、同国の農学関連分野で最も歴史の古い国立大学です。今回はメインキャンパスであるバンコク市北部のバンケンキャンパス（敷地面積132ha、総学生数58,000人以上！）を訪問しました。

最初に Faculty of Veterinary Technology の Worawut 学部長（写真1, 2）を訪問しました。Worawut 学部長は日本への留学経験があるため日本語がとても堪能で、英語と日本語とを交えてタイ国における獣医学研究の現状、カセサート大学における獣医学研究の進展、およびRCASとの国際共同研究の可能性について協議しました。



写真1



写真2

その後、Faculty of Agriculture（写真3）を訪問しました。



写真3



写真4

Sutkhet 学部長による挨拶の後、RCAS およびカセサート大学双方による協議を会議室にて開始しました(写真4)。まず吉村教授が広島大学およびRCASに関する説明を行った(写真5)後に、Theerawit 博士がカセサート大学および Faculty of Agriculture の概要について発表し、議論を行いました。また Chaiyapoom 博士からは、Faculty of Agriculture における研究の推移、国際共同研究の提案および国際シンポジウムの開催等について意見が出されました(写真6)。



写真5



写真6

その後、昼食を挟んで吉村教授および小櫃准教授による国際シンポジウムが Faculty of Agriculture 303 教室にて開催されました。吉村教授は‘Innate immunodefense system in hen reproductive organs.’との題目で、抗菌ペプチドであるディフェンシンの鳥類生殖器官における遺伝子発現等について発表しました(写真7)。また小櫃准教授は‘Forage utilization by ruminants toward improving feed self-sufficiency’との題目で、反芻家畜の飼料利用性に関する発表を行いました(写真8)。会場には多くの学生らが集まり、活発な議論が行われました。

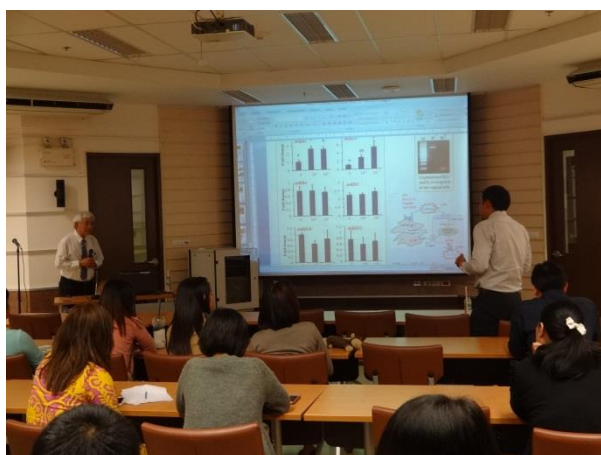


写真7



写真8

今回、2日間の短い滞在期間でしたが、カセサート大学の教員や学生の皆さんとの貴重な交流の機会を得ることが出来、RCASとカセサート大学との国際共同研究の可能性を探る良いきっかけとなりました。カセサート大学は福岡空港を経由して僅か5時間程度のフライトで行くことが出来、地理的にも非常に近かったことがとても印象的でした。今後も双方の直接的交流を図りながら、研究および教育に関するコラボレーションを積極的に実施していきたいと考えています。

